

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	墓園計画の推進事業								
1-2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	環境課	係	環境保全係	評価票作成者	環境保全担当係長 西山 紳	
1-3 総合計画における施策の体系	節	生活環境 「安全・安心で、うるおいのあるまちづくり」			基本施策	火葬場・墓地		コード	1 1 4
	項	環境保全			単位施策(中)	墓園の整備拡充		コード	1 1 4 2
					単位施策(小)	墓園計画の推進		コード	1 1 4 2 1
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	墓所を必要とする方		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	墓所を必要とする方に墓所を提供できるようにする。				
1-5 事務事業の内容	墓園当初計画に3,359区画と計画されており、現在3,031区画工事が完了している。残りの区画を販売状況にあわせて竣工する事業								

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	墓園特別会計の資金計画の見直し作業を実施し、効率化を図った。	墓園基金の運用益による維持管理は、金利が低いため困難である。	高齡化社会の到来により、墓所を必要とする者が増大しつつある。		
平成19年度	"	墓園の残数が少なくなり、次期造成工事の計画が必要になった。	"			
平成20年度	墓園特別会計の今後の方針を検討した。	"	"			
平成21年度	22年度設計・23年度工事で実施計画された。	"	"	遠隔地での就職、核家族化で墓所を必要とする者が増大。		
平成22年度	第二期第三工区の実施設計を行った。					
平成23年度	第二期第三工区の施工を行った。					
平成24年度						
平成25年度						
平成26年度						
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名			前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明				
		年間の墓所販売数(基)			50(基)	60(基)	墓所の残数により墓園事業の状況を示す。(平成18年度当初残数212ヶ所)			

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	活動実績 a(基) 直接事業費 b(千円) 人件費 c(千円) 合計コスト d(b+c) (千円) 単位コスト d/a (千円)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
			60(基)	52(基)	51(基)	43(基)	19(基)	18(基)			
	0	0	0	0	4,200	113,894					
	2,680	2,669	2,649	2,742	4,699	4,602					
	2,680	2,669	2,649	2,742	8,899	118,496					
	1基当たり 44.7	1基当たり 51.4	1基当たり 51.9	1基当たり 63.7	1基当たり468.4	1基当たり6,583	当たり	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 活動実績...墓所販売数。直接事業費...墓園の設計コンサルタント料・建設工事費の総額。人件費...職員0.75人分 43/60=71.6

2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(単位)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		後期目標値に対する達成度(%)	60	52	51	43	19	18			
		100.0	86.7	85	71.6	31.7	30				

3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果(アウトカム自己分析)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価	A	A	A	A	A	A				

4段階評価結果 A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 D : 事務事業の廃止が相当

判断の基準 必要性(必要な事務事業であるか)
 公共性(公が実施する意味があるか)
 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3 - 2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識		次年度に向けて改善する取組み		事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価	
	平成18年度	墓所の残数が少なくなったので、次の墓園建設計画を明確化する必要がある。	現在の保有墓所を完売させる。		墓所の美化を図り購入意欲の増大を図る。	
平成19年度	実施計画に次期墓園造成工事をあげた。	"		予定していた数の墓所を販売できた。		
平成20年度	財政当局に造成工事の予算を請求した。	引き続き造成工事の予算化を要求する。		計画していた区画数の墓所の販売ができたが、残りの墓所がわずかとなった。		
平成21年度	設計料が予算を計上できた。	区画の面積と需要を検討する。		予定以上の販売で、残数が4㎡・30区画以下となった。		
平成22年度	第二期第三工区の造成工事を実施する。					
平成23年度	第二期第三工区の造成工事後の改修計画を立案する。					
平成24年度						
平成25年度						
平成26年度						
平成27年度						

4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の結果	結果		審査会による改善方向の指示	
	平成18年度	A	継続して事業を進めること。	
平成19年度	A	継続して事業を進めること。		
平成20年度	A	継続して事業を進めること。		
平成21年度	A	継続して事業を進めること。		
平成22年度	A	継続して事業を進めること。		
平成23年度	A	継続して事業を進めること。		
平成24年度				
平成25年度				
平成26年度				
平成27年度				